

# 琉球大学学術リポジトリ

## 日米関係（沖縄返還） 14

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43789">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43789</a>

44  
3.12 下田大使・シンシルド議員会談

ワットソン

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政事外外官

次官 房

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

参事官 参事官

総番号(TA) 10273 主管  
 69年9月12日 20時00分 ワットソン 発着  
 69年9月13日 18時18分 本省 米北

外務大臣 殿 下田 (大使) 臨時代理大使 総領事 代理

マンズフィールド議員との会談

第754号 極秘 至急

1. 日本使マンズフィールド民主党院内総務を上院に訪問し、オキナワ問題をはじめ当面の国際問題につき意見を交換したところ、要旨次のとおり。

1. 本使より、カンサス大学における貴議員のスピーチ(往電第7/7号)は、オキナワ問題に関し、日本人としてこれ以上望むべき何ものもないと思う程好意的なものであり深く感謝する旨述べたところ、マンズフィールドは同演説は全く自分の個人的見解であり、米政府はもちろん米議会の多数意見を代表するものでもない。しかしオキナワ問題は早期解決を必要とするというのは自分の信念であり、今後機会のある毎に同じ意見を述べるつもりであると述べ、本使より、オキナワ問題が解決すれば、日米間にはもはや本質的に解決困難な問題はなくなると同時に、安全保障の問題に対する一部日本国民のへん見も解消すべく、かつその上で始めて米側が希望するように日本がアジアの指導的役割を果たすべき立場にあることについても目ざめるよ

外務省

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

極秘

うになるであろうと述べておいた。

2. (貴議員は最近大統領と会われた趣のところ、新政権の欧州へん重を指摘するものであるがと質したのに対し、)それはそのとおりのと思う。ただし新政権がより大きな重点をヨーロッパにおくという意味ではなしに、その注意がまず欧州に向けられたという意味においてである。ジョンソン政権時代はベトナム戦争のため否応なしにアジアに注意を向けざるを得なかつたが、その間欧州諸国は米国により不当にFRIGLEITされていたとの感情を持つようになつた。ジョンソンはこのようなヨーロッパ側の見方を修正しようと手始めに欧州を訪問したが、新政権もアジア問題を重視している点に変わりはなく、なかんずくベトナムと日米安保、オキナワの問題が米国にとり三つの重要問題となつている。

3. 大統領とは訪欧前と帰国後2回会つたが、最近の会合では欧州旅行の報告に接したが、オキナワ問題は出なかつた。多分明後日もう一回会合があるはずであるが、その際はABM及びこれにともなう対ソ交渉方針につき、説明があるものとりよう解している。

4. (最近の中ソ国境紛争に言及し、中共問題についてのコメントを求めたのに対し、)最近の紛争は単なる国境紛争ではなく、一層根の深いものがある。COMMUNIST IMPERIALISMということばがある

外務省

極秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

が、果して帝国主義といいうるか否かは別として、中ソそ  
う方にあるEXPANSIONISMのしようとなつて見  
るのではないか。米国においては、中共に対する根本政策  
として、中共を国際社会に復帰せしめることが望ましいと  
する点につきコンセンサスが出来つつあるが、問題は国際  
社会に復帰することを必ずしも希望しない中共を如何にし  
て復帰せしめるようもつてゆくかの方策の点にあると思う  
。(本使より、日本側においても同様のコンセンサスが  
出来つつある点を指摘し、従来通りの政経分離の方針を説明  
して置いた。)

5. マンスフィールドより、自分は今朝「ニューヨーク・タ  
イムズ」により、サトウ総理がオキナワ返かんと核兵器との  
関係につき、従来より一層はつきりした意見を述べられた  
ことを知ったが、右は本年末同総理訪米の際の日本側態度  
を示すものなりやとて本使のコメントを求めたので、本使  
より、あたかも今朝東京より、総理発言内容の詳細に接し  
たが、右は野党議員との間にオキナワに核がなくとも軍事  
的機能を得るか否かの点につき、ちゆう象的議論が行  
なわれたにとどまり、特に対米交渉に臨む日本政府の立場  
ないし方針を示されたものではない。現に総理はよく日対  
米交渉に臨む態度としては、依然白紙であるとの答弁をく  
り返されている旨指摘しておいた。

6. 更に本使より、オキナワ基地問題研究会の報告に言及

極秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

し、核なき本土なみというのが今や日本国内の多数意見  
となりつつあることは事実であり、総理の御訪米前アイチ  
外相が6月初旬来米されることになつているので、それま  
でには日本側の交渉方針が決定されるものと考えるところ  
。いかなる国の政府も国内の多数意見を無視して交渉方針  
を決定することは不可能であり、従つて日本側としては核  
なき、本土なみを主張することとなる可能性が強いものと  
個人的には考えている旨述べ同議員の感しよくを求めたの  
に対し、マンスフィールドは、それは日本政府の自由に決  
定せられるべき事項であるが、基地の態様問題は、日本  
側にとつて困難な問題であると同時に、米側にとつても極  
めて困難な問題であることを率直に認めざるをえないと述  
べた。

7. 本使より、先般の日米議員こん談会に言及し、<sup>スコット議員は米側の</sup>日本側を  
<sup>可成り</sup>と安保、オキナワの如き重要な問題につききたん  
なき意見の交換をとりげられたことは極めて有意義と感ずる  
旨述べたところ、マンスフィールドはこれに同感の意を表  
し、訪日した議員全部が同様の考えを持つて帰つたとは限  
らないが、日本の実情を認識する議員が増えたことは結構  
なことと思ふ旨述べ、本使より、これら議員との接しよく  
は今後も維持したいと考えているが、特にオキナワ問題の  
えん論なる解決の為、貴議員の側面的協力を今後お願い  
したい旨述べて辞去した。

